

テオティワカンの土器についての一考察(1): パトラチケ期からミカオトリ期までの土器

Study of Teotihuacan Ceramics (1): from Patlachique Phase to Miccaotli Phase

佐藤悦夫

SATO Etsuo

1. はじめに

標高約2300mのメキシコ盆地に位置するテオティワカン遺跡は、前1世紀から後7世紀頃まで栄えたアメリカ大陸最大級の都市国家であった。テオティワカンでは、入念な都市計画に基づいた建築活動が、紀元1年から150年にかけて行われた。その都市設計の軸となったのが、一辺約150m、高さ45mの「月のピラミッド」を基点として、都市の中央部を南に走る長さ4km、幅45mの「死者の通り」と呼ばれる大通りであった。この通りに沿って、20以上の神殿が建設され、この中でも「太陽のピラミッド」は、一辺約220m、高さ65mの規模を持つ巨大な神殿であった。周辺には、20平方キロメートルにわたり2000を超えるアパート形式の集合住居が存在し、当時の人口は10万から20万人といわれている。アパート建築に居住した集団の中には、黒曜石製石器、土器、織物などの工芸品を専門に生産する集団もいた。このようにテオティワカンは、メキシコ中央高原をコントロールするような都市国家であり、その影響はティカル遺跡やコパン遺跡などのマヤ文明の諸都市国家にも大きな影響を与えている。

テオティワカンでは、20世紀初頭から発掘調査や修復作業が行われているが、本格的な土器の研究が開始するのは1960年代以降である。本稿では、テオティワカン遺跡の土器の分類法及びパトラチケ期からミカオトリ期までの土器の特徴を把握し、分類法や編年上の問題点等を検討することを目的とする。また、トラミミロールバ期からメテベック期に関する土器については次回まとめる予定である。

2. テオティワカン遺跡の土器の研究史

テオティワカンの土器研究は1960年代以降本格的に開始されたが、マヤ研究のような統一的な分類方法は確立されておらず、また博士論文等での研究報告は多くあるが正式な出版物は少ない。

セジュールネは、1950年から60年代に発掘されたアテテルコ(Atetelco)地区、サクアラ(Zacuala)地区、ヤヤウアラ(Yayahuala)地区の土器を紹介している(Sejourne 1966)。これらの発掘により、香炉を含む多くの完形の土器が出土し、それらの土器はテオティワカンI期からテオティワカンIV期までの時期の土器として分類された。セジュールネは、土器の分類法については、言及していないが、後述するベニホフ等の研究の基礎となったと考えられる。

スミスは、マヤ研究で使用されているType-Variety分類法を使用して1960年代に発掘された太陽のピラミッド出土の土器を分析した(Smith 1987)。スミスは、土器のタイプの命名法などにマヤ研究の方法論をそのまま適用したために、スミスの研究報告は他のテオティワカンの土器研究とは大きく異なっている。

ミューラーは1980年から82年にかけて行われたテオティワカン考古学プロジェクトの土器の分類を行った

(Muller 1978)。ミューラーは、スミスの分類法を簡略化して分類を行なったが、タイプ名の命名法など典型的なType-Variety分類法とは異なる。

ベニホフは、テオティワカン地図プロジェクト(Teotihuacan Mapping Project)の土器の分析を行った。この報告書は、出版されることはなかったが、原稿が存在する(Bennyhoff and Millon 1967)。ベニホフ等は、表面調整や胎土の特徴に応じて Ware を定義し、それぞれのWareの中で器種を決定し、時代毎の変化を報告している。

ラットレイは、ベニホフ等の Ware 及び土器のタイプ名の命名法を踏襲し、さらに上述したテオティワカン地図プロジェクトにおける試掘調査の土器データを使い、それぞれのタイプの編年を確立した(Ratray 1972, 1981)。ラットレイは、マヤの土器研究で使用されている Type-Variety 分類法には批判的である。

テオティワカンの土器研究では、分類方法としてはスミスの行なった Type-Variety 法とベニホフからラットレイに繋がる土器の分類方法の2つがあるが、現段階ではラットレイの研究が一応認められており、様々なテオティワカンに関する土器研究においてもラットレイの研究が引用されている(Hopkins 1995, Yarborough 1992)。

3. テオティワカン遺跡の土器の概略

3-1. 時期区分

テオティワカンの時期区分に関しては、表1で示すようにミューラーの時期区分(Muller 1978)、ラットレイの時期区分(Ratray 1981)、スミスの時期区分(Smith 1987)があるが、現在はラットレイの時期区分及びそれに対応する絶対年代が一般的に使用されている。

表1 時期区分

	Muller 1978	Ratray 1981	Smith 1987
パトラチケ期 (Patlachique phase)	B.C.150-B.C.100	B.C.150-B.C.1	B.C.100-B.C.1
サクワリ前期 (Early Tzacualli phase)	B.C.100-B.C.1	A.D.1-100	A.D.1-100
サクワリ後期 (Late Tzacualli phase)	A.D.1-150	100-150	100-150
ミカオトリ期 (Miccaotli phase)	150-200	150-200	150-250
トラミミロルバ前期 (Early Tlamimilolpa)	200-300	200-300	250-375
トラミミロルバ後期 (Late Tlamimilolpa)	300-450	300-450	375-450
ショラルパン前期 (Early Xolalpan phase)	450-550	450-550	450-550
ショラルパン後期 (Late Xolalpan phase)	550-650	550-650	550-650
メテペック期 (Metepec phase)	650-750	650-750	650-700

(出所：Muller 1978, Ratray 1981, Smith 1987)

3-2. 基本器種

テオティワカン遺跡では多くの土器の器種¹が報告されている(Bennyhoff and Millon 1967, Ratray 1981, Blucher 1971)。本稿では、パトラチケ期からミカオトリ期に出現する器種に関してとりあげる。また、Bowlに関しては、胴部や口縁部の形に注目して細分している。

Olla：頸部が外反する大型の短頸壺 (図1: a)

Jar：Ollaより小型で、頸部が外反する短頸壺 (図1: b)

Tecomate：口径が15cm～30cmの胴部が強く内湾し、最大の胴部直径が口縁部直径より大きくなる無頸壺 (図1: c)

Bowl

Simple Bowl：胴部がなだらかに内湾する碗 (図1: d)

- Flaring Bowl：胴部が外傾する碗（図 1: e）
- Outcurving Bowl：胴部および口縁部が外反する碗（図 1: f）
- Incurving Bowl：胴部が内湾する碗（図 1: g）
- Shouldered Bowl：胴部の中央部または上部にかけて突出部をもち断面図では“S”字型の形の胴部になる碗（図 1: h）
- Angled Bowl：なだらかに内湾する胴部から口縁部が垂直に立ち上がる碗（図 1: i-j）
- Corrugated Bowl：口縁部断面が波型になる碗。
- Pinched Bowl：波状の口縁部を持つ碗。
- Vase：平底で胴部が直立または外傾するシリンダー状の鉢（図 1: k-l）
- Dish：器高が Bowl より低い平底の皿（図 1: m）
- Plate：器高が Dish より低い平底の皿（図 1: n-o）
- Comal：胴部がほとんど無い丸い鉄板状の皿（図 1: p）
- Cazuela：口縁部が多く外反する大型の深鉢（図 1: q）
- Basin：器厚が厚く胴部が外傾あるいは直立する平底の大型の鉢（図 1: s）
- Florero：口縁部が大きく外反し頸部が直立あるいは内傾する小型の長頸壺（図 1: r）
- Amphora：頸部が直立あるいは内傾し、取っ手が胴部に付く器高の高い大型の壺（図 1: t-u）
- Tlaloc Jar：器の正面にトラトック神が塑像されている儀式用の壺（図 1: v）
- Incensario：香炉、様々な器形がある（図 1: w）
- Cover：器の蓋（図 1: x）
- Miniature：ミニチュア土器、様々な器種がある。
- Support：土器の底部に付けられる脚。

3-3 . Ware

テオティワカン遺跡の土器の分類では、土器の胎土や表面調整の属性に着目して同一の属性を持つものをひとつの Ware として分類する方法が一般的に使われており、テオティワカン産の土器では 9 の Ware が定義されている（Rattray 1981: 107-129）。ラットレイによると同一の Ware は複数の時期に見られ、それぞれの Ware は下記のような特徴を持っている。

Coarse Matte Ware は、砂質の胎土で表面はナデ調整が行われるだけである。器種は香炉であり、トラミミロルパ以降には携帯用の香炉と考えられている Canderero が出現する。パトラチケ期からメテベック期まで続く。

Fine Matte Ware は、Coarse Matte Ware と同様の表面調整が施されるが、胎土は良質である。器種としては Cover、香炉の飾り(Adorno)、ミニチュア土器がある。サクワリ前期に出現しメテベック期まで続く。

Burnished Ware は、土器の表面に磨きの調整が施された土器でスリップはかけられていない。表面の色は、赤褐色、褐色、暗褐色とヴァリエーションがある。胎土は、時期によって異なるがやや荒い胎土から良質の胎土までありテンパーを含む。代表的な器種は、Olla と Comal でパトラチケ期からメテベック期までのすべての時期で見られる。

Polished Ware は、表面が研磨され光沢を有するグループで表面の色彩により黒色系と褐色系に分けられる。代表的な器種は、Jar、Bowl、Vase、Plate、Florero、Tlaloc Jar 等で特にミカオトリ期の土器は質的にも優れ、量的にも豊富になる。パトラチケ期からメテベック期まで出土する。

Painted Ware は、装飾技法の違いにより Monochrome Red、White on Red Bichrome、Red on Natural Bichrome、Polychrome、Resist 細分される。表面は良く研磨され光沢がある。赤の顔料は、パトラチケ期からミカオトリ

期までは、赤鉄鉱(Hematite)が使われないが、トラミミロルパ前期以降では赤鉄鉱を使用した Specular Red が現れ、ショラルパン期では一般的になる。Monochrome Red と Red on Natural Bichrome はパトラチケ期からメテベック期まで、White on Red Bichrome と Resist は、パトラチケ期からトラミミロルパ前期まで、Polychrome はパトラチケ期からサクワリ前期までそれぞれ続く。

Dense Ware は、他の Ware と比較してその表面調整と胎土そして器種の特徴により明確に区別できる。土器の表面は、研磨された明褐色の色で硬く引き締まった特徴を示し、胎土も良質で硬い。器形は小型の Bowl やミニチュア土器がある。サクワリ前期からトラミミロルパ後期まで続く。

Granular Ware も表面調整および器種が特徴的である。土器の表面には白色のスリップがかけられ、その上に黒色の文様が施される。器種では Amphora が一般的で、他には Jar 等も見られる。胎土はやや荒く、黒色や赤色のテンパーを含む赤褐色からピンクがかかった白色系の色である。サクワリ前期からメテベック期まで続く。

Thin Orange グループは、土着の土器ではなく、プエブラ(Puebla)から交易品としてテオティワカンにもたらされた土器である。非常に器厚の薄いオレンジ色の土器で、表面は良く研磨されている。ミュラーによると、このグループはサクワリ後期から出土し、メテベックまで続く(Muller 1978)。

この他に土着の土器の Ware としては、ショラルパンからメテベックにかけて出土する San Martin Orange Ware、Copa Ware、Stuccoed and painted Ware があるが、これらの特徴に関しては次回にまとめる。

4. パトラチケ期からミカオトリ期までの土器の特徴

4-1. パトラチケ期の土器²

ブラチャー(Blucher)によると、トラチノルパン(Tlachinolpan)遺跡³のパトラチケ期には、Burnished Ware(97.20%)、Polished Ware(1.80%)、Dense Ware(0.25%)、Coarse Ware(0.10%)の4つの土器グループが報告されている(Blucher 1971: 304-362)。さらにそれぞれのグループは、装飾の違いや器形の違いによってさらに細分されている(表2)。

Burnished Ware の胎土は、テンパー(混和材)が次のサクワリ期の土器より少なく、良質である。表面調整では、赤褐色の表面に整形痕が条線となって残る。

Burnished Ware に属する無装飾の土器群(Plain)では、Olla(図2: a-b)、Jar、Bowl、Tecomate(図2: e-f)、Vase、Plate、Comal(図2: g)、Cazuela、Basin(図2: c-d)の器種があり、Olla や Bowl が多く出土する。Olla の器形の特徴は、“Wedge-rim”と呼ばれる口縁部の形にある。この口縁部は、口唇部にかけて肥厚し、口唇部が平らになる。この口縁部のバリエーションとして、口唇部の内側のみが丸くなるものや、口唇部が丸くなるものなどがあるが、どの口縁部も、その厚さは、胴部より厚くなるのが特徴である(図2: a, b)。ベニホフ等によると、この“Wedge Rim”は、パトラチケ期の時期を決定する

表2 トラチノルパン遺跡におけるパトラチケ期の土器¹⁾

土器のグループ	パトラチケ期の土器全体における割合(%)
Burnished Ware	97.20
A. Plain	84.50
Olla	49.10
Jar	4.80
Tecomate	2.40
Basin	0.35
Comal	0.05
Bowl & Cazuela	25.60
Support	1.25
Plate	0.05
Vase	0.90
B. Decorated Monochrome	0.45
C. Bichrome	11.60
Olla	0.65
Jar	1.20
Tecomate	0.05
Bowl	7.20
Support	0.50
Plate	0.05
Vase	0.10
Others	1.85
D. Polychrome	0.60
Jar	0.05
Tecomate	0.05
Bowl	0.50
Polished ware	1.80
A. Plain Monochrome	0.85
B. Decorated Monochrome	0.35
C. Bichrome	0.50
D. Incised Bichrome	0.05
E. Polychrome	0.05
Dense Ware	0.25
Coarse Ware	0.10

註1) この表は Blucher 1971 の報告書から作成した。ネガティブ文様を持つ土器は、少数のためこの表から除外している。

指標とされている(Bennyhoff and Millon 1967)。Bowlは、様々な器形のバリエーションが認められる。その中で、代表的な器形は、Shouldered Bowlで胴部の中央部または上部にかけて突出部をもち断面図では“S”字型の形の胴部になるもの(図2: h-i)、Simple Bowlと呼ばれるなだらかに内湾する胴部を有するもの等である。Tecomateは、メキシコ盆地では、この時期を最後に消滅する(Blucher 1971: 313)。

沈線等の装飾を持つ土器群(Decorated Monochrome)は出土数が少ないが、装飾技法としては沈線(Incision)や刺突文(Punctuation)や口唇部に造形を加えたものが報告されている。

彩色を有する土器群では、Burnishedされた土器の表面の上に赤色あるいは白色の単色で文様を描いたものと(Bichrome)と赤色と白色の2色で文様を描いたもの(Polychrome)の2種類がある。Bichromeの器種としてはOlla、Jar、Tecomate、Bowl、Plate、Vaseがあり、その中でBowlやJarが多い。Bowlの中では、前述したShouldered BowlやSimple Bowlの他に、なだらかに内湾する胴部から口縁部が垂直に立ち上がるRim-angled Bowlや胴部が外傾するFlaring Bowl等が一般的である。文様は、Bowlでは一般的に口唇部および口縁部内部に赤色のバンドが施される。その他、山形文などの文様も見られる。OllaやJarでは、Bowl同様に口唇部や口縁部に赤色のバンドがある以外は、胴部の外面に水平の赤色バンドが施される。

Polished Wareは、全体として出土数が少ないが、胎土は、Burnished Wareと同様に良質である。表面は、良く研磨され光沢がある。浅い研磨痕が見られる。

無装飾の土器群(Plain Monochrome)では、表面の色が黒色(29.4%：トラチノルバン出土のパトラチケ期のPlain Monochromeの中での割合、以下同様)、赤褐色(Red-brown: 23.5%)、褐色(Brown: 17.6%)、赤色(11.8%)と続く。器種は、Bowl、Jar、Vaseである。装飾を持つ土器群では、沈線を用いた装飾が施される。デザインとしては、一本の水平線、2本の平行線、複数の沈線で斜線を構成するものなどがある。彩色を施された土器群では、赤色の顔料を使って、土器の内面に、単純な赤色のバンドが施される。Polychromeでは、赤色のバンドと白色の山形文の組み合わせが見られる。

Dense Wareは、非常に良質のキメの細かい硬い胎土を持つが、テンパーは少数ながら大型のものが入られる。表面は、比較的によく磨かれ、研磨された土器に近い。器種としてはOllaのみである。

Coarse Wareは、砂質の胎土で、表面はナデ調整が施されるだけである。この時期のCoarse Wareを構成する器種は、儀式用の香炉(Incensario)である。ベニホフ等によると香炉の器形は、高台を持ち、口縁部や胴部にアップリケの装飾を持つものが報告されている(Bennyhoff and Millon 1967)。

ネガティブ文様を持つ土器は、Burnished WareやPolished Wareのそれぞれの土器グループに見られる。土器の表面の色(Brown)とネガティブ文様を組み合わせたもの(Bichrome Resist)とそれに赤色のペイントが付け加えられたもの(Polychrome Resist)に分類されている。Bichrome ResistのBowlの器形は、Shouldered Bowlで口縁部にサークルや波型文等のネガティブ文様が見られる。Polychrome Resistでは、OllaやJarあるいはBowl等の器種がある。Ollaでは、外面に縦の赤色のバンドと三角形のネガティブ文様の組み合わせ、Bowlでは内外面に赤色のバンドやサークルとネガティブ文様の組み合わせが見られる。

パトラチケ期の土器全体としての特徴をまとめると、(1)Burnished Wareの出土数が非常に多く、器種も豊富なこと、特にBowlにおける器形のヴァリエーションが豊富である、(2)Burnished WareのOllaは出土数も多く、また良質の胎土を有し、この時期の指標となるWedge Rimを持つこと、(3)Tecomateがパトラチケ期を最後に消滅すること等があげられる(表3)。

4-2. サクワリ期の土器⁴

ラットレイ(Rattray)によると、サクワリ期の土着の土器はCoarse Matte Ware、Fine Matte Ware、Burnished Ware、Polished Ware、Painted Ware、Dense Ware、Granular Wareにそれぞれ分類されている(Rattray 1981: 130-179)。また、交易品としてもたらされた土器としてThin Orangeタイプがある(Rattray

1974: 105-107)

サクアリ期の Burnished Ware では、Olla、Jar、Bowl、Cazuela、Comal、Basin が器種として存在する。前期の Olla は、パトラチケ期の土器と比較して胎土が荒く、大粒のテンパーを含むようになる。表面調整ではランダムに施された調整痕が表面に見られる。Olla の器形の特徴は、口縁部が肥厚し、口唇部が水平になる Wedge Rim や斜めになる Beveled Wedge Rim が一般的になり、パトラチケ期でみられた Round Wedge Rim は減少する(図 3: a-d)。また、器形全体としては頸部が長くなだらかに外反し、胴部は長細い形になる。後期になると胎土は、(1) 白色の細かいテンパーを含む良質の胎土、(2) 多くの白色や黄色のテンパーを含むやや荒い胎土、(3) 多くの砂質のテンパーを含む荒い胎土の 3 種類に分類され、胎土の色は赤褐色(2.5YR 4/4)⁵ が一般的である。土器の表面には調整痕が規則的に配置された Pattern Burnishing が出現する。口縁部の形では、Wedge Rim や Beveled Wedge Rim が前期から継続し、また、口唇部に装飾が加えられるものもある(図 3: e-g)。サクアリ期の Olla には取っ手は付かない。Jar は Olla の小型の土器で、その特徴は Olla とほぼ同じである(図 3: h-j)。前期の Bowl は、多くの黒色や白色のテンパーを含むやや荒い胎土を有し、表面は良く調整されている。器形では Wedge rim Flaring Bowl や Shouldered Bowl が一般的である。後期になると Shouldered Bowl は無くなり、Simple Bowl が出現する。Cazuela は平底の大型の深鉢であり、前期と後期の間では大きな変化は無い。胎土は Olla よりコンパクトで硬く、口縁部が大きく外反する器形が特徴で、口縁部の厚さは胴部より厚くなる(図 3: k-m)。Comal は丸い鉄板のような平らな土器でその形が特徴的である。内面は良く Burnish されているが、外面は粗い調整である。Basin も Comal 同様に出土数の少ない土器で前期、後期を通じて大きな変化は無い。器形は器厚が厚く、胴部が外傾あるいは直立する平底の大型の鉢である。

Polished Ware は、表面の色彩により黒色系と褐色系に大きく分類される。前期の胎土は、白色や黒色のテンパーを含むやや荒い褐色の胎土(7.5YR 7/6、5/4、5/6)と“Salt and Pepper Paste”と呼ばれる白色や黒色の細かいテンパーを含み良く焼かれている赤褐色の胎土(2.5YR 6/8、5/6)の 2 種類がある。表面はよく研磨されており、研磨痕は見られない。器種としては、Jar、Bowl、Vase、Plate があり、この時期に初めてフロレロ(Florero)が出現する。Bowl では、Flaring Bowl や Shouldered Bowl(図 3: o)が一般的な器形であるが、口縁部断面が波型になる Corrugated Bowl が新たな器形として出現する(図 3: n)。後期では Tlaloc Jar と呼ばれる儀式用の土器で墓の副葬品となる器種が新たに加わるが、他の器種構成は前期と同じである。また、胎土や表面調整の点でも前期の特徴が継続する。沈線を持つ Bowl や Vase も少数ながら存在し、土器の焼成後に曲線や平行線あるいは Cross-hatching 等のデザインが施される。

Painted Ware では、Monochrome Red、White on Red Bichrome、Red on Natural Bichrome、Polychrome、Tzacualli Resist が見られる。前期の Monochrome Red は、内外面とも赤色(2.5YR 5/10、5/6)のペイントが施された土器で良く研磨されている。Jar は外面のみペイントされ研磨される。器種は Jar、Vase、Bowl (Shouldered Bowl、Corrugated Bowl)があり、Vase は大きく外反する口縁部を持つ。後期になると Vase では全面にペイントされるのではなく、内面はペイントされないか、途中までのペイントにとどまる。器種では Bowl (Flaring Bowls、Shouldered Bowl)が多く、次に Jar、Vase と続く。Corrugated Bowl は後期では見られなくなる。White on Red Bichrome は、良く研磨された赤色(10R 4/6、3/6)のペイントの上に白色の文様が描かれるタイプである。文様のモチーフは平行線などの幾何学文様や動物の図像や S 字等である。器種では Jar⁶、Bowl、Vase がある。胎土は多くの黒色や白色のテンパーを含んだやや荒い胎土である。後期になると文様のモチーフでは「鳥の目」を表現したような文様も現れ、前期よりも文様は洗練される。器種では胴部が外傾し、口縁部が大きく外反する Vase がある。Red on Natural Bichrome は、研磨された赤褐色系(10R 4/6、5/6；5YR 5/4、5/6)の表面に赤色の文様が描かれるタイプである。文様は主に口縁部に赤色のバンドが施され、胴部外面には幾何学文様が描かれる。器種は Bowl が最も多く、Vase や Jar がそれに続く。胎土は、暗赤褐色の胎土に多くの白色のテンパーを含む特徴的な胎土である。後期もほぼ同じ特徴を示す。Polychrome は、研磨

された黄褐色の表面に赤色と白色で文様を描いたタイプである(Red and White on Natural)。これはサクワリ前期に消滅するタイプで出土量は少ない。Tzacualli Resist はネガティブ文様をもつタイプである。ネガティブ文様を持つタイプは、サクワリ前期にその出土量はピークに達し、その後減少しミカオトリ期にはほとんど無くなる。ネガティブ文様は、土器の外面のみに描かれるもの、内面のみに描かれるもの、または内外面に描かれるものと同様である。モチーフとしては波型、円、渦巻き文などがあり、口縁部には赤色のペイントが施される。器種は Bowl(Shouldered Bowl、Angled Bowl、Flaring Bowl、Pinched Bowl)、Vas、Jar である。胎土は、非常に良質であるが、赤褐色の胎土に多くの黒色ならびに白色のテンパーが見られる。後期になると Resist on Natural、Resist and Red on Natural、Resist on Natural with a red rim、Polychrome Resist 等ネガティブ文様と赤色や白色の組み合わせが存在する。器種では Bowl(Shouldered Bowl、Pinched Bowl、Flaring Bowl) Vase、Jar があり、器種構成は前期と同じである。

Dense Ware はラットレイによると、サクワリ前期に始めて出現するタイプ(Rattray 1981: 154)であり、ブラチャーのパトラチケ期の土器にある Dense Ware とは異なる(Rattray 1981: 119)。サクワリ前期の器種は、ミニチュア土器や Bowl(Flaring Bowl、Pinched Bowl)であり、パトラチケ期で見られた Olla は無い。胎土は硬く非常に良質であり、表面は良く調整されている。後期では Bowl(Shouldered Bowl、Flaring Bowl) Jar やミニチュア土器があり、表面は研磨されている(図 3: p-r)。

Granular Ware は、サクワリ前期に出現する新しいタイプである。このタイプは、白色のスリップの上に黒色で文様が描かれる。器種は Jar のみである。胎土は良質で、色は薄いピンク色からオレンジ色(5YR 8/2、8/4、7/6)である。後期になると Amphora が新しい器種として加わる。

Fine Matte Ware もサクワリ前期に出現する新しいタイプである。このタイプの表面調整は、ナデ調整(Smoothing)のみが行われている。器種は、ミニチュア土器、Bowl(Shouldered Bowl、Simple Bowl) Cover である。胎土は細かい白色や黒色のテンパーを含むが良質である。後期も器種構成は、ミニチュア土器と Bowl(Simple Bowl、Flaring Bowl)であるが、Flaring Bowl では口唇部がギザギザになるような装飾が加えられる土器もある。

Coarse Matte Ware は、前期、後期ともに荒い胎土で表面もナデ調整が行われるだけである。器種は香炉で、焼成後に白色のペイントが施されたり、口縁部や口唇部が刺突文等で装飾される。

サクワリ後期には、Thin Orange が出現する。このタイプは、非常に器厚の薄いオレンジ色の土器で、表面は良く研磨されている。器種は Bowl のみである。

サクワリ期の土器全体としての特徴は、(1) Burnished Ware の Olla において、パトラチケ期でみられた Round Wedge Rim は減少すること、(2) Polished Ware では、Florero や Tlaloc Jar、Corrugated Bowl が新しい器種や器形として加わること、(3) Painted Ware は数量的にはサクワリ全体の土器の中では少ないが、パトラチケ期と比較して、質的にも量的にも豊富になる。特に、Resist グループは様々な装飾パターンをもつ土器が出土すること、(4) 器種や器形の点からは、この時期ではどの器種においても Supports は付けられないことやミニチュア土器が出現すること、(5) 新しいタイプの土器として Fine Matte Ware や Granular Ware が加わること、(6) プエブラからの交易品として Thin Orange 土器がテオティワカンで始めて出現すること等である(表 3)。

4-3. ミカオトリ期の土器⁷

ラットレイによるとミカオトリ期の土着の土器は、サクワリ期と同様に Coarse Matte Ware、Fine Matte Ware、Burnished Ware、Polished Ware、Painted Ware、Dense Ware、Granular Ware にそれぞれ分類されている(Rattray 1981: 179-196)。また、Thin Orange タイプも出土する(Rattray 1974: 105-107)。

ミカオトリ期の Burnished Ware では Olla、Jar、Cazuela、Bowl、Comal の器種があり、パトラチケ期やサ

クワリ期にあった Basin は無くなる。Olla や Jar は、口縁部が水平になるサクワリ期の伝統を引き継いでいるが、この時期には口縁部が大きく外反する器形も見られる(図 4: a-e)。表面は赤褐色(5YR 4/4、5/6)で、良く調整されている。胎土は多くの白色のテンパーを含む。Cazuela は、大きく外反する口縁部を持つ器形は、サクワリ期と比較して大きな変化はない(図 4: f-g)。Bowl は出土数が少ないが、Flaring Bowl や Incurving Bowl 等の器形がある。ミカオトリ期の Comal は、大型になり器厚も厚くなる(1 - 2 cm)。そして、中心部より口縁部付近が最も器厚が厚くなる(図 4: h)。

Polished Ware では、大きな変化が認められる。表面の色により、黒色系、褐色系(5YR 3/4、2.5YR 3/6)そして Chocolate Brown(5YR 4/4)の3種類のグループに分けられる。特に、Chocolate Brown は、ミカオトリ期の特徴的な色であり、良く研磨された光沢のある表面となり、Bowl や Vase の器種に見られる。Polished Ware の器種としては、Jar、Bowl(Simple Bowl、Flaring Bowl、Outcurving Bowl)、Vase、Plate、Florero、Tlaloc Jar がある(図 4: j-m)。口縁部が大きく外反し、平底の底部に Nubbin Supports が付く Outcurving Bowl は、この時期に出現する。また、Nubbin Support のついた Flaring Bowl もこの時期の典型的な器形である。Nubbin Supports の形は、丸いものから三角錐状のものまで様々であり、底部の縁に3個つけられる。Jar は黒色系、褐色系の両方のグループに見られるが、ミカオトリ期には胴部に縦の溝を掘り込んだ Fluted Jar が出現する。表面が良く研磨され光沢のある黒色の Florero は、一般に無装飾のタイプが主であるが、胴部に Fluting の装飾が施されるものもある(図 4: l)。Incision の装飾は Bowl や Vase の器種に見られ、デザインは Cross-hatched Triangles、階段状のモチーフ、2本の平行線で描いた花の文様等がある。また、新しいスタイルとしては、土器のある部分を研磨せず無光沢の状態にしておいて、その部分を沈線で囲み無光沢の部分強調する“Zoned and Incised”がこの時期に出現する。胎土は、多少のテンパーを含むが良質で、明褐色(7.5YR 6/6、5YR 5/6)から赤褐色(5YR 7/8)の色で、未焼成の黒色バンドが時々見られる。

Painted Ware は、Monochrome Red、White on Red Bichrome、Red on Natural Bichrome、Miccaotli Resist があるが、数量的には減少し具体的な特徴を捉えるのは難しい。Monochrome Red では Bowl(Flaring Bowl、Shouldered Bowl)、Vase が、Miccaotli Resist では Vase が存在する。胎土は典型的なミカオトリ期の胎土で、色は赤褐色(2.5YR 7/8、6/8)から明褐色(5YR 8/4、7/4)で多くの細かいテンパーを含む。焼成は良好で未焼成の黒色バンドは見られない。

Dense Ware はサクワリ期では明褐色の土器であったが、この時期にはオレンジ(2.5YR 5/4、5YR 6/6)に変わる。器種には Jar、Bowl(Simple Bowl、Incurving Bowl、Shouldered Bowl)、ミニチュア土器があり、Bowl には小さな Nubbin supports が付くこともある。

Granular Ware は、サクワリ期より数量的に増加する。器種は Amphora で、白色のスリップのかけられた表面に赤色のペイントが施される。装飾は、一般的に Amphora の頸部に描かれる。胎土は、黄褐色(7.5YR 7/6)で細かい黒色や透明のテンパーを含み、黒色バンドの無い良質の胎土である。

Coarse Matte Ware(図 4: i)、Fine Matte Ware、Thin Orange は、ミカオトリ期になっても大きな変化はなく、サクワリ期からの特徴を継続する。

ミカオトリ期の土器全体としての特徴をまとめると、(1)Polished Ware が質的にも量的にも豊富になること、碗では Outcurving Bowl が代表的な器形として存在すること、(2)器形の点からは、サクワリ期に無かった Supports が Bowl や Vase の器種に付くこと、(3)Polished Ware とは対照的に、サクワリ期に豊富だった Painted Ware は減少すること、(4)Burnished Ware の Olla では口縁部が大きく外反する土器が出現すること等があげられる(表 3)。

5. 今後の課題

ラットレイの採用した土器の分類法は、一つのWareの中で胎土や表面調整のヴァリエーションも多く、一つの土器片の編年的位置付けを決定するには曖昧な点が多い。一方、スミスの Type-Variety 分類法では、一つのタイプは、ある特定の一時期に属するので、一つの土器片がどのタイプに属するかを同定できれば、その土器片の属する時期が決定できる。しかし、あまりに細分化されているため Type レベルあるいは Variety レベルでの同定がかなり困難である。今後は、伝統的なテオティワカンにおける土器の分類法をベースに、ある特定の時期を強く反映する属性を抽出する必要がある。発掘で得られる土器データは、墳墓や Cache の副葬品を除くと大部分が小さな土器片であるので、それぞれの器種における器形の変化すなわち口縁部の微細な変化などの属性を抽出することが重要となる。また、土器分析者の観察ばかりではなく、タイプを決定するための補助手段としての胎土分析等の化学分析等も必要である。

土器分析の目的の一つとして土器編年の確立がある。現在、テオティワカンにおける編年研究については、ラットレイの研究が一応支持されているが、パトラチケ期の土器については報告されていない。本稿では、パトラチケ期の土器についてはブラッチャーの報告を中心にまとめたが、テオティワカンの中心部におけるパトラチケ期の土器の実態、特にパトラチケ期の土器を含む自然堆積層を見つけることが必要である。都市建設が行われるサクワリ期とそれ以前のパトラチケ期の土器を詳細に比較検討することにより、社会の変化と土器の製作技術の変化がどのように連動するのかを明らかにする必要がある。

また、表 3 で表したように時期毎に新しい Ware や器種の出現、消滅が見られる。これらの現象も単にそれぞれの時期における土器群の特徴として捉えるだけでなく、その背後にある社会の変動と関連づけて捉えなければならない。それぞれの時期の絶対年代に関しても、3 章で述べたように研究者によって違いが認められる。今後は、テオティワカン遺跡の調査による新しい C¹⁴ のデータを獲得するだけでなく、メキシコ盆地全体の絶対年代のデータも再検討する必要がある。

表3 器種構成¹⁾

	Olla	Jar	Tecomate	Bowl								Vase	Dish	Plate	Comal	Cazuela	Basin	Florero	Amphora	Tlaloc	Incensario	Miniature	Cover	Support		
				simple ²⁾	flaring ³⁾	outcurving	incurving ⁴⁾	shouldered ⁵⁾	angled	corrugated	pinched															
ミカオトリ期	Burnished ware	●	●			●	●	●						●	●											
	Polished ware																									
	A. Monochrome		●		●	●	●					●						●						●		
	B. Incised					●						●												●		
	Painted ware																									
	A. Monochrome Red								●																	
	B. Miccaotli Resist																									
	Coarse Matte Ware																						●			
	Fine Matte Ware																							●		
	Dense Ware		●		●			●	●														●		●	
サクワリ後期	Granular Ware																									
	Miccaotli Thin Orange																									
	Burnished ware	●	●		●	●								●	●	●										
	Polished ware																									
	A. Monochrome		●			●		●				●						●								
	B. Incised											●														
	Painted ware																									
	A. Monochrome Red		●			●		●				●														
	B. White on Red Bichrome											●														
	C. Red on Natural Bichrome		●			●		●				●														
D. Tzacualli Resist		●			●		●				●															
Coarse Matte Ware																						●				
Fine Matte Ware				●		●																	●			
Dense Ware		●				●		●														●		●		
Granular Ware	●	●																								
Late Tzacualli Thin Orange																										
サクワリ前期	Burnished ware	●				●		●						●	●	●										
	Polished ware																									
	A. Monochrome		●			●		●		●	●							●								
	B. Incised		●			●?		●		●	●															
	Painted ware																									
	A. Monochrome Red		●					●		●	●															
	B. White on Red Bichrome ⁶⁾										●															
	C. Red on Natural Bichrome		●			●		●			●	●														
	D. Polychrome											●														
	E. Tzacualli Resist		●			●		●		●	●															
Coarse Matte Ware																						●				
Fine Matte Ware				●		●		●															●			
Dense Ware						●					●											●		●		
Granular Ware		●																								
パトラチケ期	Burnished Ware																									
	A. Plain	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●								●		
	B. Decorated Monochrome					●		●	●	●		●	●											●		
	C. Bichrome	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●											●		
	D. Polychrome		●	●	●	●		●	●	●														●		
	Polished ware																									
	A. Plain Monochrome		●			●		●	●			●	●													
	B. Decorated monochrome							●	●																	
	C. Bichrome								●																	
	D. Polychrome																									
Patlachique Resist	●	●			●	●		●	●																	
Dense Ware	●																									
Coarse Ware																							●			

註 1) この表のパトラチケ期に関しては Blucher 1971、サクワリ期、ミカオトリ期に関しては Rattray 1981, 1973の報告書から作成した。1個以上の個体数が確認された場合は●、個体が無いか同定できない場合は空白である。

2) このカテゴリーには、Simple Bowl の他、Simple Bowl with Everted Lip を含む。

3) このカテゴリーには、Flaring Bowl の他、Flaring Rim Bowl, Shallow Bowl, Shallow Tripod Bowl, Deep Bowl, Upright Bowl を含む。

4) このカテゴリーには、Incurving Bowl の他、Rounded Bowl を含む。

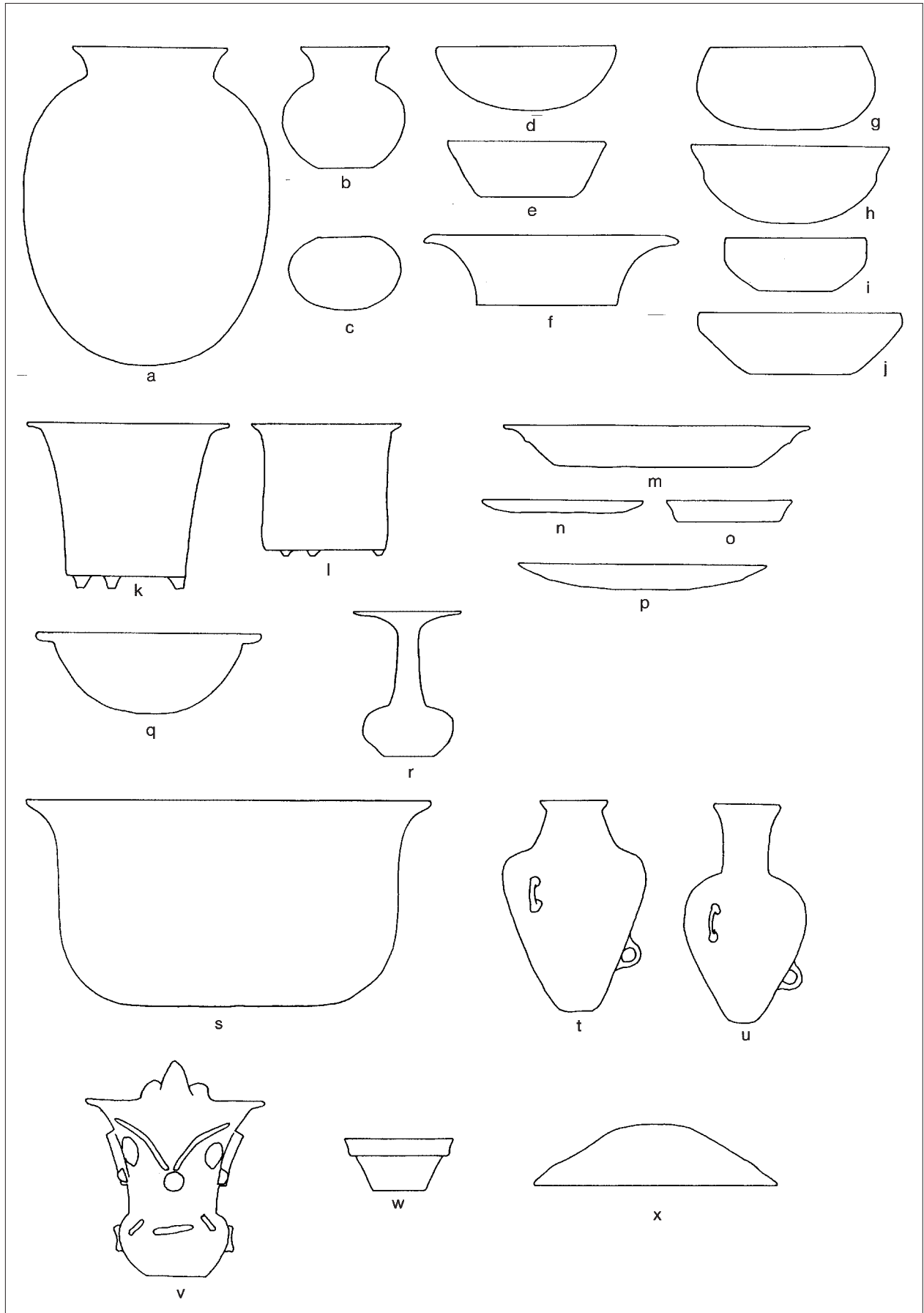
5) このカテゴリーには、Shouldered Bowl の他、Weak-Shouldered Bowl, Rim-Shouldered Bowl を含む。

6) Bowl に関しては、器形が同定できないので空白にしてある。

表4 図版出所一覧

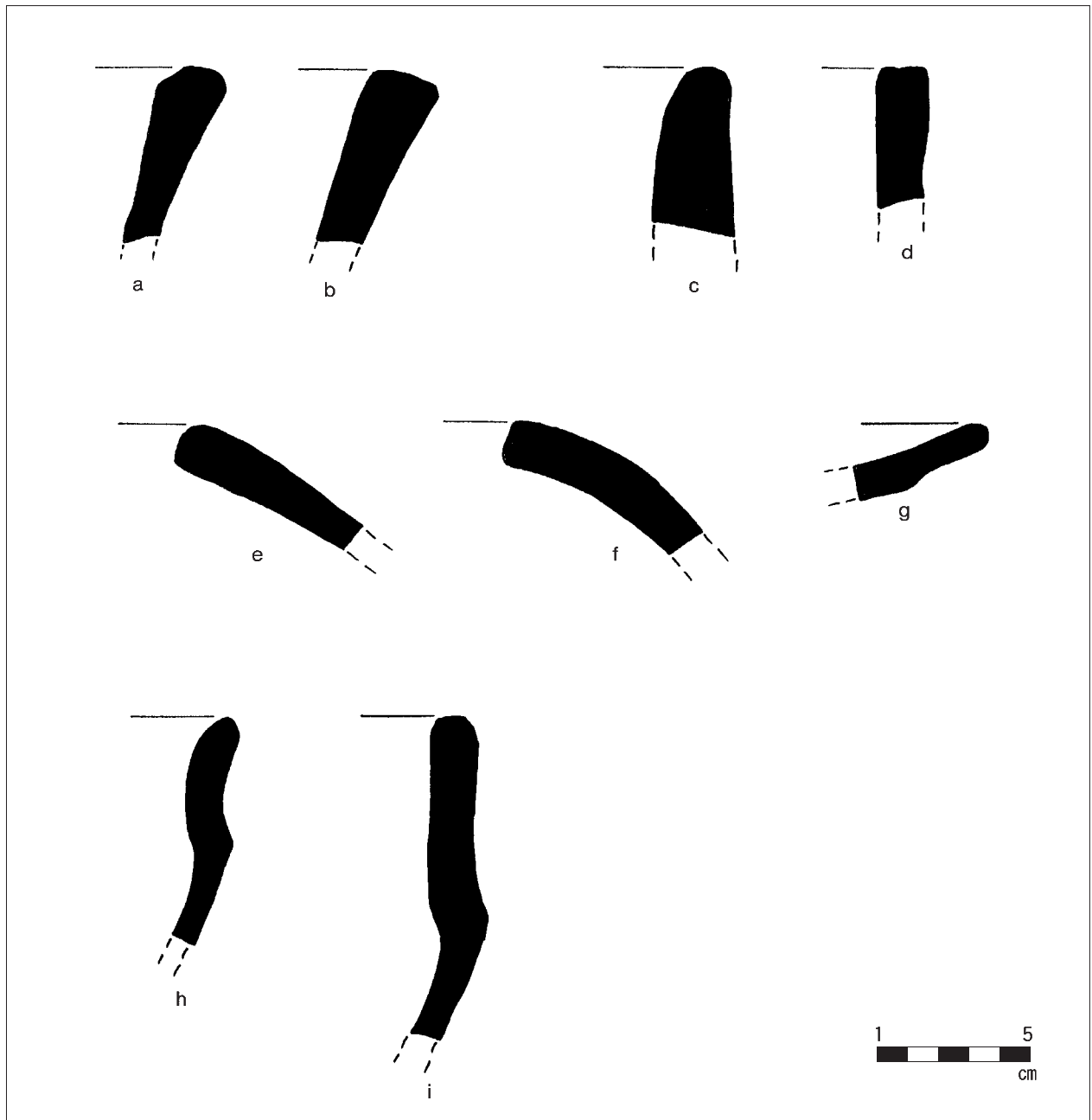
図版番号	出所	Fig. No.	Ware	Form	備考	
図1	a	Bennyhoff and Millon 1967		Olla	再トレース	
	b	Bennyhoff and Millon 1967		Jar	再トレース	
	c	Bennyhoff and Millon 1967		Tecomate	再トレース	
	d	Bennyhoff and Millon 1967		Patlachique Fig.24	Simple Bowl	再トレース
	e	Bennyhoff and Millon 1967		Patlachique Fig.25	Flaring Bowl	再トレース
	f	Bennyhoff and Millon 1967		Miccaotli Fig. 12	Outcurving Bowl	再トレース
	g	Bennyhoff and Millon 1967		Patlachique Fig.29	Incurving Bowl	再トレース
	h	Bennyhoff and Millon 1967		Patlachique Fig.5	Shouldered Bowl	再トレース
	i	Bennyhoff and Millon 1967		Patlachique Fig.16	Angled Bowl	再トレース
	j	Bennyhoff and Millon 1967		Patlachique Fig.17	Angled Bowl	再トレース
	k	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.54	Vase	再トレース
	l	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.52	Vase	再トレース
	m	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.41	Dish	再トレース
	n	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.14	Plate	再トレース
	o	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.14	Plate	再トレース
	p	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.9	Comal	再トレース
	q	Bennyhoff and Millon 1967		Patlachique Fig.11	Cazuela	再トレース
	r	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.21	Florero	再トレース
	s	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.6	Basin	再トレース
	t	Bennyhoff and Millon 1967		Basic Forms Fig.11	Amphora	再トレース
u	Bennyhoff and Millon 1967	Basic Forms Fig.12	Amphora	再トレース		
v	Bennyhoff and Millon 1967	Basic Forms Fig.20	Tlaloc Jar	再トレース		
w	Bennyhoff and Millon 1967	Basic Forms Fig.26	Incensario	再トレース		
x	Bennyhoff and Millon 1967	Basic Forms Fig.41	Cover	再トレース		
図2	a	Blucher 1971	Burnished	Olla	再トレース	
	b	Blucher 1971	Burnished	Olla	再トレース	
	c	Blucher 1971	Burnished	Basin	再トレース	
	d	Blucher 1971	Burnished	Basin	再トレース	
	e	Blucher 1971	Burnished	Tecomate	再トレース	
	f	Blucher 1971	Burnished	Tecomate	再トレース	
	g	Blucher 1971	Burnished	Comal	再トレース	
	h	Blucher 1971	Burnished	Shouldered Bowl	再トレース	
	i	Blucher 1971	Burnished	Shouldered Bowl	再トレース	
図3	a	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	b	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	c	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	d	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	e	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	f	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	g	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	h	Ratray 1981	Burnished	Jar	再トレース	
	i	Ratray 1981	Burnished	Jar	再トレース	
	j	Ratray 1981	Burnished	Jar	再トレース	
	k	Ratray 1981	Burnished	Cazuela	再トレース	
	l	Ratray 1981	Burnished	Cazuela	再トレース	
	m	Ratray 1981	Burnished	Cazuela	再トレース	
	n	Ratray 1981	Polished	Corrugated Rim Bowl	再トレース	
	o	Ratray 1981	Polished	Shouldered Bowl	再トレース	
	p	Ratray 1981	Dense	Small Shouldered Bowl	再トレース	
q	Ratray 1981	Dense	Small Shouldered Bowl	再トレース		
r	Ratray 1981	Dense	Small Shouldered Bowl	再トレース		
図4	a	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	b	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	c	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	d	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	e	Ratray 1981	Burnished	Olla	再トレース	
	f	Ratray 1981	Burnished	Cazuela	再トレース	
	g	Ratray 1981	Burnished	Cazuela	再トレース	
	h	Ratray 1981	Burnished	Comal	再トレース	
	i	Ratray 1981	Coarse Matte	Incensario	再トレース	
	j	Ratray 1981	Polished	Small Outcurving Bowl	再トレース	
	k	Ratray 1981	Polished	Small Outcurving Bowl	再トレース	
	l	Ratray 1981	Polished	Florero	コピー	
	m	Ratray 1981	Polished	Flaring Bowl	コピー	

图1 基本器種



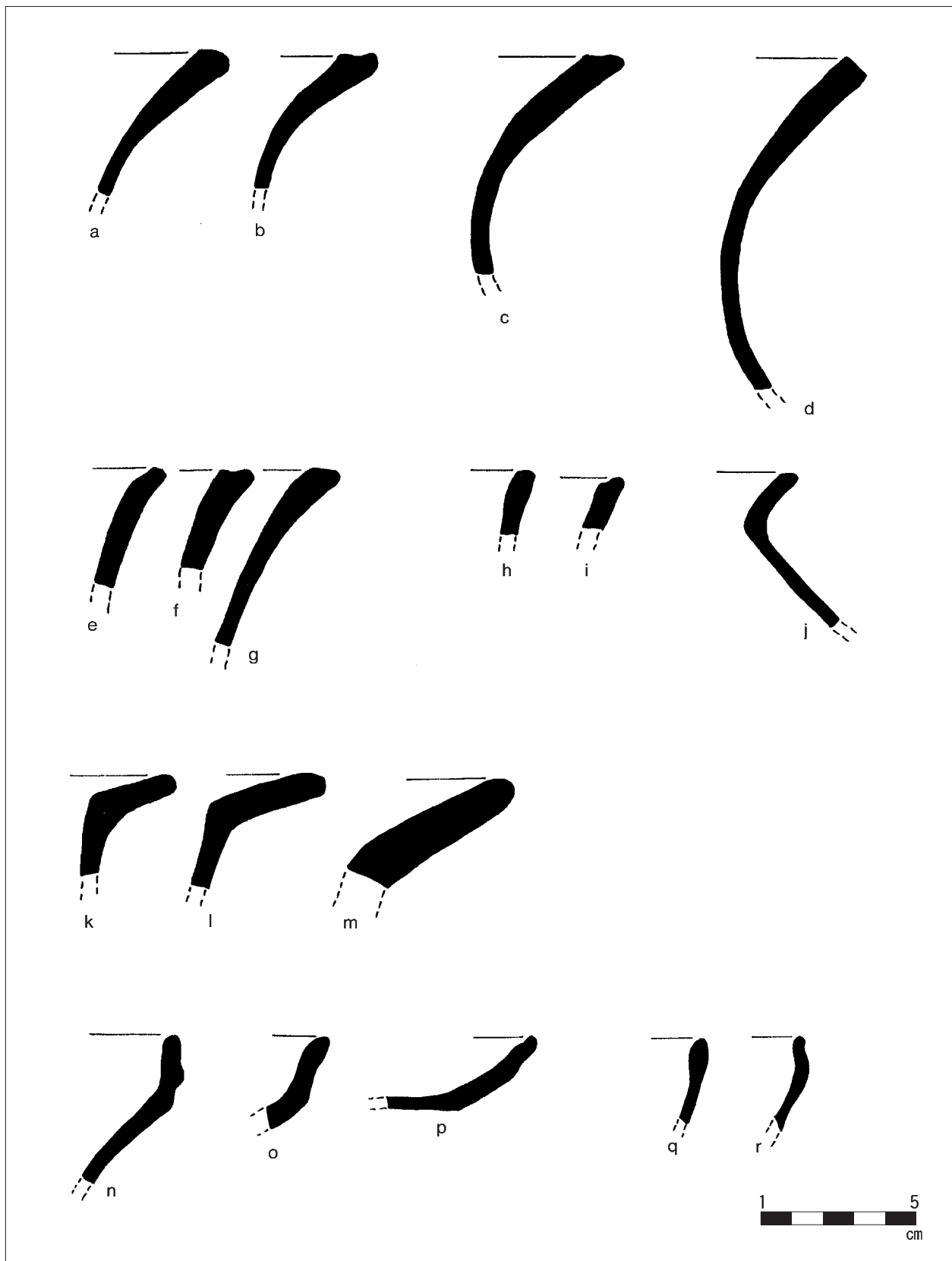
出所：「表4 図版出所一覧」参照

図2 パトラチケ期の土器



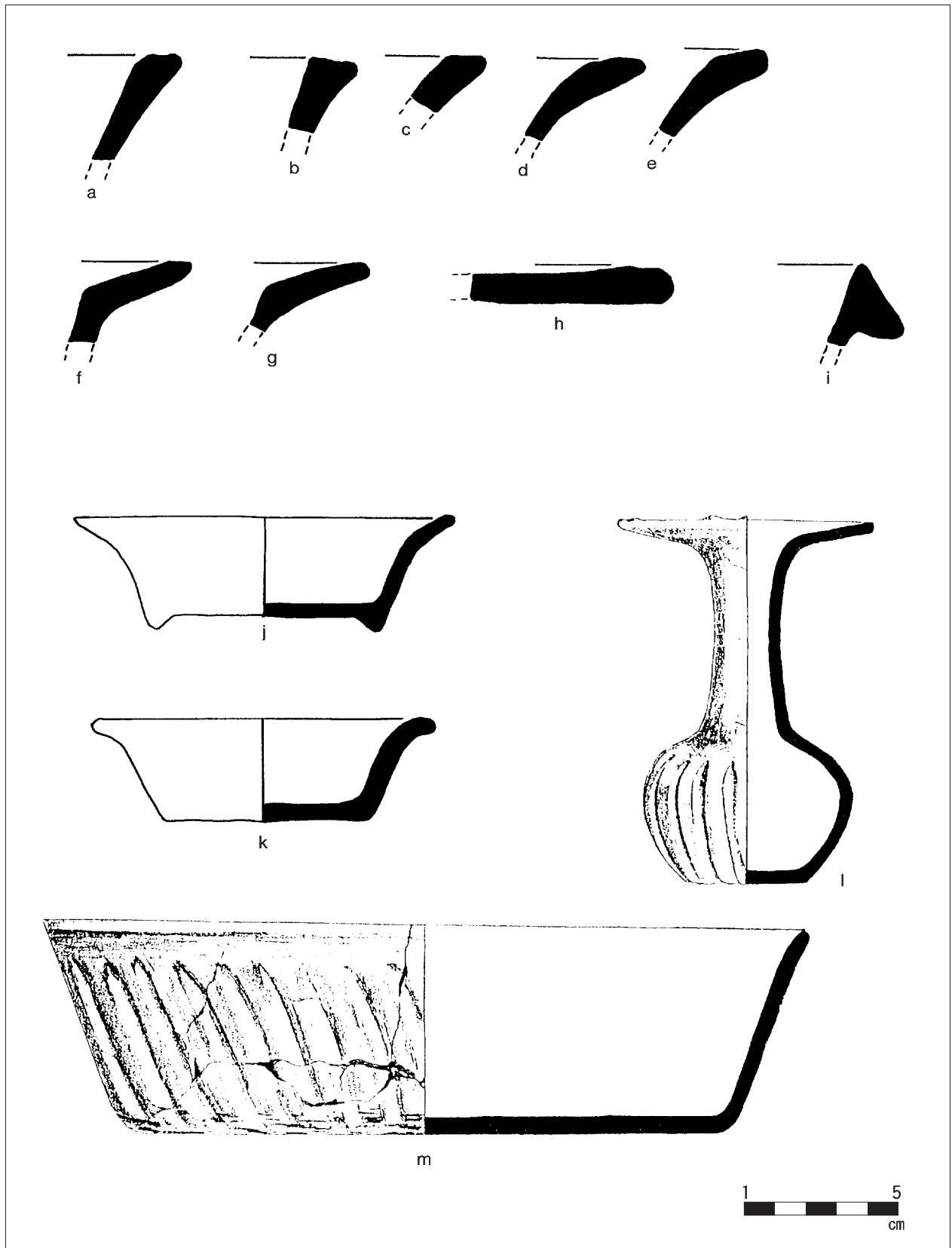
出所：「表4 図版出所一覧」参照

図3 サクワリ期の土器



出所：「表4 図版出所一覧」参照

図4 ミカオトリ期の土器



出所：「表4 図版出所一覧」参照

註

- 1 : 本稿では器種と器形という言葉をそれぞれ以下の概念で使用している。
器種は、その用途や特徴的な形に応じて分類。器形は、それぞれの器種におけるバリエーションを意味する。
- 2 : パトラケ期の土器の特徴に関しては、ミュラー(Muller 1968)、スミス(Smith 1987)、ベニホフやミリオン等(Bennyhoff and Millon 1967)等の研究があるが、本稿では、多くの土器が出土しているトラチノルバン遺跡の報告書(Blucher 1971)を中心にまとめた。筆者は、アリゾナ州立大学のテオティワカン・センター(メキシコ)にあるトラチノルバン出土のブラチャー・コレクション土器を実見し、本稿の記述の参考にした。
- 3 : トラチノルバン遺跡は、テオティワカン盆地の北西部の Cerro Malinalco 中腹に位置し、1962年からのミリオン(Millon)による遺跡の分布調査によって発見され、1967年からブラチャー等によって発掘調査が行われた。
- 4 : サクワリ期の土器の特徴に関しては、ミュラー(Muller 1968)、スミス(Smith 1987)、ベニホフやミリオン(Bennyhoff and Millon 1967)等の研究があるが、現在はラットレイの報告書(Rattray 1974, 1981)が土器研究の基本書となっているので、本稿ではラットレイの報告書を中心にまとめた。サクアリ期の土器に関しては、アリゾナ州立大学のテオティワカン・センター(メキシコ)にあるラットレイ・コレクションを実見し、本稿の記述の参考にした。
- 5 : マンセルの土色帖表示
- 6 : ラットレイの報告ではJarはないが、ベニホフ等の報告にはJarがある。
- 7 : ミカオトリ期の土器の特徴に関しては、ミュラー(Muller 1968)、スミス(Smith 1987)、ベニホフやミリオン(Bennyhoff and Millon 1967)等の研究があるが、現在はラットレイの報告書(Rattray 1974, 1981)が土器研究の基本書となっているので、本稿ではラットレイの報告書を中心にまとめた。ミカオトリ期の土器に関しては、サクワリ期の土器同様にラットレイ・コレクションを実見し、本稿の記述の参考にした。

参考文献

- Bennyhoff, James A. and Rene Millon
1967 "Draft of Teotihuacan Ceramic Monograph"
Unpublished Manuscript
- Blucher, Stephen F.
1971 "Late Preclassic Culture in the Valley of Mexico: Pre-Urban Teotihuacan"
Ph. D. dissertation, Brandies University, Waltham, Mass.
- Hopkins, Mary Randolph
1995 "Teotihuacan Cooking Pots: Scale of Production and Product Variability"
Ph. D. dissertation, Brandies University, Waltham, Mass.
- Muller, Florencia
1978 *La Cerámica del Centro Ceremonial de Teotihuacán*
Instituto Nacional de Antropología e Historia, México
- Rattray, Evelyn
1972 "The Teotihuacan Ceramic Chronology: early Tzacualli to early Tlamimilolpa phase"
Ph.D. dissertation, Department of Anthropology, University of Missouri, Columbia
1981 "The Ceramic Chronology: early Tzacualli to Metepec phase"
Unpublished Manuscript
- Sejourne, Laurette
1966 *Arqueología de Teotihuacán: La Cerámica*
Fondo de Cultura Económica, México
- Smith, Robert Eliot
1987 *A Ceramic Sequence from the Pyramid of the Sun, Teotihuacan, Mexico*
Papers, Vol. 75, Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Cambridge, Mass
- Yarborough, Clare McJimsey
1992 "Teotihuacan and the Golf Coast: Ceramic Evidence for Contact and Interactional Relationships"
Ph.D. dissertation, the University of Arizona